

大阪中之島美術館「開創1150年記念 醍醐寺 国宝展」

7月24日（水）より後期展示スタート

後期展示のみどころをご紹介します！

会期：8月25日（日）まで／会場：大阪中之島美術館 4階展示室

大阪中之島美術館（所在地：大阪市北区 / 館長：菅谷富夫）は、大阪で初めてとなる醍醐寺の大規模名宝展「開創1150年記念 醍醐寺 国宝展」を、6月15日（土）～8月25日（日）の会期で開催中です。

7月21日（日）に前期展示が終了し、7月24日（水）より後期展示がスタートします。重要文化財《舞楽図屏風 俵屋宗達筆》、国宝《閻魔天像》など、後期のみ展示の作品も多数揃います。今回は、後期展示の見どころをご紹介します。概要は以下の通りです。

みどころ① 重要文化財《舞楽図屏風 俵屋宗達筆》（後期のみ展示） 超有名絵師、宗達の芸術性が光ります！

金色の画面に絶妙な間合いで配置された舞人や太鼓、松桜！鮮やかな色彩にもご注目ください。生没年不詳・謎の有名絵師 俵屋宗達のセンスが光る表現です。

屏風は5種類の異なる舞を描いたもの。右隻には「採桑老（さいそうろう）」と二人舞の「納曾利（なそり）」、左隻には「蘭陵王（らんりょうおう）」と「還城楽（げんじょうらく）」、四人舞の「崑崙八仙（こんろんはっせん）」が描かれています。左隻にさりげなく登場する松と桜も重要です。松は豊臣秀吉、桜は栄華を象徴するとも考えられます。

醍醐寺は15世紀、兵火によって大きなダメージを受けますが、秀吉の支援と座主・義演の力によって大きく復興しました。本作は彼らが活躍した過ぎし日への追慕や敬意が込められているようです。会場に足を運び、屏風の前で輝かしい時代を想像してみてくださいはいかがでしょうか。



重要文化財《舞楽図屏風 俵屋宗達筆》二曲一双 江戸時代（17世紀） 画像提供：奈良国立博物館

国宝《閻魔天像》（部分）
平安時代（12世紀）
画像提供：奈良国立博物館



みどころ② 国宝《閻魔天像》（後期のみ展示） これがあの閻魔様？！細部の表現にもご注目。

「閻魔（えんま）」というと非常に怖いイメージがありますが、本作で描かれた閻魔天は穏やかな表情にふくよかな輪郭。地獄の王ではなく菩薩としての側面が描かれます。閻魔天は密教において、長寿や安産を祈る修法「閻魔天供（えんまてんく）」の本尊として祀られているのです。

本作は、明るい色彩や線の伸びやかな表現も見どころ。優美で愛嬌のある姿の閻魔様、ぜひ会場でご覧ください。

みどころ③ 重要文化財《五獅子如意》（後期のみ展示） 醍醐寺の開祖・聖宝さまが使った？素材はなんとサイの角！

本展では、法会で僧侶が手に取る道具「如意（にょい）」を展示しています。後期展示で出品する《五獅子如意（ごししのにょい）》は、醍醐寺を開創した理源大師聖宝（りげんだいししょうぼう）が実際に用いたと伝えられる品。平安時代前期の宇多天皇からのプレゼントで、珍しいサイの角が素材に使われています。

《五獅子如意》は、後年、聖宝の遺言で、奈良の重要な3つの法会「南都三会（なんとさんえ）」で講師を務める僧侶のみが代々用いることができるようになりました。どこをとっても非常に特別な如意。ぜひ、会場で間近に眺めてください。

重要文化財《五獅子如意》
平安時代（10世紀）
奈良・東大寺蔵
画像提供：奈良国立博物館



落合陽一さんスペシャルコメント公開！ 「オブジェクト指向菩薩」などの関連展示も

本展開催中の大阪中之島美術館にて、メディアアーティスト・落合陽一氏が制作、醍醐寺の開眼法要によって魂が吹き込まれた「オブジェクト指向菩薩」などの作品が、7月24日（水）から8月22日（木）まで、2階多目的スペースにて展示されます。

「滑らかなオントロジーと共鳴するオブジェクト：物化する計算機自然・微分可能存在論における密教世界」と題した今回の展示では、デジタルも含めた新しい自然“デジタルネイチャー”と密教世界の類似性等に着目した作品を通じ、技術と哲学、東洋と西洋の思想が融合した新たな存在論の可能性を探究します。

【展示概要】

滑らかなオントロジーと共鳴するオブジェクト：物化する計算機自然・微分可能存在論における密教世界
Can Digital Nature Distill Souls into Differentiable, Resonant Code?

会期：2024年7月24日（水） - 8月22日（木）

会場：大阪中之島美術館 2階多目的スペース

落合氏のメッセージはこちら！

【落合陽一メッセージ】大阪中之島美術館での作品展示に寄せて ([youtube.com](https://www.youtube.com/watch?v=...))



スペシャルメッセージ動画より（上記リンク参照）

✨後期展示開催記念✨

「醍醐寺展で心もお肌も綺麗にパワーアップ！」キャンペーン

大阪の老舗化粧品会社、明色化粧品とのコラボ企画第2弾。

人気商品「メディショット NA15リンクル美容液」のパウチサンプルを先着で配布いたします（期間限定）。何かと生きづらいこの世の中…。醍醐寺展の密教パワー&お手軽なケアで、心身共に潤っちゃいましょう！

配布期間：7月24日（水）～8月3日（土）※7月29日（月）は休館日につき配布なし

配布場所：大阪中之島美術館 4階展示室入り口

内容：醍醐寺展ご入場のお客様を対象に「メディショット NA15リンクル美容液」パウチサンプルを、各日10:00より先着100名様（計1000名様）に限定配布

「開創1150年記念 醍醐寺 国宝展」開催概要

展覧会名：開創1150年記念 醍醐寺 国宝展

会期：2024年6月15日（土）～8月25日（日）※会期中に展示替えがあります

会場：大阪中之島美術館 4階展示室 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4-3-1

開場時間：10:00～17:00（入場は16:30まで）

休館日：月曜日、7月23日（火）※7月15日（月・祝）、8月12日（月・休）は開館

観覧料：

券種	一般	高大生	小中生
当日	1,800円	1,100円	500円
団体	1,600円	900円	300円



▲WEBページ

主催：大阪中之島美術館、総本山醍醐寺、日本経済新聞社、テレビ大阪

協賛：伊藤園、エア・ウォーター、大阪商工信用金庫、サラヤ、住友林業、ダイキン工業、大和証券グループ

協力：奈良国立博物館

監修：内藤 栄（大阪市立美術館 館長）

展覧会構成：第一章：山の寺 醍醐寺 第二章：密教修法のセンター^{すほう} 第三章：桃山文化の担い手

展覧会WEBページ：<https://nakka-art.jp/exhibition-post/daigoji-2024/>

本展特設サイト：<https://art.nikkei.com/daigoji/>

《 報道関係者お問い合わせ先 》

「開創1150年記念 醍醐寺 国宝展」PR事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場）090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-MAIL：daigoji@tm-office.co.jp